

コンビニエンスストア各社が地球環境にやさしいレジ袋や容器を相次いで導入している。今年四月に施行された改正容器包装リサイクル法で、包装材料やポリ容器などの削減が義務付けられたことが背景にある。原油高の影響を少しでも緩和してコスト削減につなげる狙いもある。

ファミリーマートは独自商品のたまごの容器を二十七日の販売分からトウモロコシを主原料とする「バイ

トウモロコシ原料／焼却時CO₂半減 コンビニ包装「環境配慮」

オマスプラスチック」に変更する。バイオマス（生物資源）素材のプラスチックは植物が大気中の二酸化炭素（CO₂）を吸収して成長するため、焼却してもCO₂が年間八

排出されるCO₂が年間八割する中で、「ポリエチレンの使用量を減らす最新技術の効果で、コストが相殺できる」（同社）という。レジ袋に工夫を施したの（同社）という。来春までに約千三百全店で導入する予定。目的は買いの来店客が少ないコンビニではマイバッグを持参する客が少なく、レジ袋有料化には反対する姿勢を打ち出していた。地球環境に配慮した容器などを導入することで、温暖化防止への努力を消費者にアピールしたい考えだ。

各社、コスト削減も狙う

Q.が増えない環境配慮型の素材とされる。

ローソンでも今年四月からサラダ四品の容器にトウモロコシ原料のプラスチックを採用。容器の焼却時に

・港）。二十二日から首都圏の店舗で順次、レジ袋を焼却する際に発生するCO₂が従来比で半減できるレジ袋を導入した。原料とな